

# 「2025年大阪・関西万博を 好機とした関西での 観光振興について」

2023年7月10日（月）

主催

奈良県庁「令和5年度第1回奈良県・市町村長サミット」

公益財団法人 大阪観光局理事長（大阪観光局長）  
元観光庁長官 大阪府・大阪市 I R 推進会議座長

**溝 畑 宏**

# 大阪観光局がめざす都市像と8つのキーワード

世界が憧れる「住んでよし」「働いてよし」「学んでよし」「訪れてよし」の

## 世界最高水準、アジアNo.1の国際観光文化都市

「国際観光文化都市」のイメージを表す「8つのキーワード」

### ① 体験・感動

- 多様な食事、エンタメ、歴史、文化・芸術、レジャー等が楽しめるアミューズメント都市
- 様々なプロスポーツ観戦が楽しめる都市
- 世界中の芸術家等が集まる文化・芸術都市
- 面白いイベントを行う人が集うイベント都市
- 世界中の富裕層を楽しませる特別な体験を提供する都市

### ② 元気・活力

- 緑や花がそばにある、癒しのある都市
- スポーツが盛んで、健康と生きがいを楽しむ健康増進都市
- 世界中から優秀な人材が集まり、事業を起こし、雇用と富が生まれるビジネス都市

### ③ 夢・希望

- 世界水準のMICE施設を持ち、多数のMICEが開催され、人・モノ・情報が集まり、イノベーションと新しいビジネスが生まれる都市
- 持続的かつ健全な経済発展があり、多くの人が余暇を楽しめる都市
- 再チャレンジを受け入れる都市

### ④ 多様性・共生・平等

- 様々な価値観を受容し、共存共栄する都市
- 旅行者、留学生など来訪者を歓迎し、彼らが快適に滞在できる都市
- 弱者を助け、共に支えあう都市
- 日本中の各地方都市に送客し、地方都市とともに栄える都市

### ⑤ 復活・対応力

- 困難から迅速に復活し、変化に柔軟に対応する人々が集まる都市

### ⑥ 安全・安心・清潔・防災

- 身の危険や感染症のリスクが低く、快適に過ごせる都市

### ⑦ 分散

- 特定の時期や場所に集中しない、多様な休暇の取り方とコンテンツが享受できる都市

### ⑧ 環境・みどり

- ゼロカーボン社会を実現する都市
- 地球温暖化の抑制をめざす都市
- 生態系多様性の維持をめざす都市

# (参考) シンクタンク等による大阪のポジション分析

世界で最も住みやすい都市ランキング 2021 ※英誌「エコノミスト」	世界の都市の安全指数ランキング2021 ※英誌「エコノミスト」	世界で最も魅力的な都市ランキング 2021 ※米誌「コンデナンス・トラベラー」																																																																						
・前回4位から上昇、安定性、医療、インフラにおいて高評価	・前回3位、医療インフラ、インフラの安全性は高評価、個人の安全性やサイバーセキュリティ面はやや低評価	・米国を除く世界の大都市部門において2位(昨年ランク外)																																																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>都市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1位</td><td>オークランド</td></tr> <tr><td><b>2位</b></td><td><b>大阪</b></td></tr> <tr><td>3位</td><td>アデレード</td></tr> <tr><td>4位</td><td>ウェリントン</td></tr> <tr><td>5位</td><td>東京</td></tr> <tr><td>6位</td><td>パース</td></tr> <tr><td>7位</td><td>チューリッヒ</td></tr> <tr><td>8位</td><td>ジュネーブ</td></tr> <tr><td>9位</td><td>メルボルン</td></tr> <tr><td>10位</td><td>ブリスベン</td></tr> </tbody> </table>	順位	都市	1位	オークランド	<b>2位</b>	<b>大阪</b>	3位	アデレード	4位	ウェリントン	5位	東京	6位	パース	7位	チューリッヒ	8位	ジュネーブ	9位	メルボルン	10位	ブリスベン	<table border="1"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>都市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1位</td><td>コペンハーゲン</td></tr> <tr><td>2位</td><td>トロント</td></tr> <tr><td>3位</td><td>シンガポール</td></tr> <tr><td>4位</td><td>シドニー</td></tr> <tr><td>5位</td><td>東京</td></tr> <tr><td>6位</td><td>アムステルダム</td></tr> <tr><td>7位</td><td>ウェリントン</td></tr> <tr><td>8位</td><td>香港</td></tr> <tr><td>9位</td><td>メルボルン</td></tr> <tr><td>10位</td><td>ストックホルム</td></tr> <tr><td>⋮</td><td>⋮</td></tr> <tr><td><b>17位</b></td><td><b>大阪</b></td></tr> </tbody> </table>	順位	都市	1位	コペンハーゲン	2位	トロント	3位	シンガポール	4位	シドニー	5位	東京	6位	アムステルダム	7位	ウェリントン	8位	香港	9位	メルボルン	10位	ストックホルム	⋮	⋮	<b>17位</b>	<b>大阪</b>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>都市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1位</td><td>東京</td></tr> <tr><td><b>2位</b></td><td><b>大阪</b></td></tr> <tr><td>3位</td><td>京都</td></tr> <tr><td>4位</td><td>シンガポール</td></tr> <tr><td>5位</td><td>イスタンブール</td></tr> <tr><td>6位</td><td>メリダ (メキシコ)</td></tr> <tr><td>7位</td><td>マラケシュ (モロッコ)</td></tr> <tr><td>8位</td><td>ポルト (ポルトガル)</td></tr> <tr><td>9位</td><td>バンコク</td></tr> <tr><td>10位</td><td>ソウル</td></tr> </tbody> </table>	順位	都市	1位	東京	<b>2位</b>	<b>大阪</b>	3位	京都	4位	シンガポール	5位	イスタンブール	6位	メリダ (メキシコ)	7位	マラケシュ (モロッコ)	8位	ポルト (ポルトガル)	9位	バンコク	10位	ソウル
順位	都市																																																																							
1位	オークランド																																																																							
<b>2位</b>	<b>大阪</b>																																																																							
3位	アデレード																																																																							
4位	ウェリントン																																																																							
5位	東京																																																																							
6位	パース																																																																							
7位	チューリッヒ																																																																							
8位	ジュネーブ																																																																							
9位	メルボルン																																																																							
10位	ブリスベン																																																																							
順位	都市																																																																							
1位	コペンハーゲン																																																																							
2位	トロント																																																																							
3位	シンガポール																																																																							
4位	シドニー																																																																							
5位	東京																																																																							
6位	アムステルダム																																																																							
7位	ウェリントン																																																																							
8位	香港																																																																							
9位	メルボルン																																																																							
10位	ストックホルム																																																																							
⋮	⋮																																																																							
<b>17位</b>	<b>大阪</b>																																																																							
順位	都市																																																																							
1位	東京																																																																							
<b>2位</b>	<b>大阪</b>																																																																							
3位	京都																																																																							
4位	シンガポール																																																																							
5位	イスタンブール																																																																							
6位	メリダ (メキシコ)																																																																							
7位	マラケシュ (モロッコ)																																																																							
8位	ポルト (ポルトガル)																																																																							
9位	バンコク																																																																							
10位	ソウル																																																																							

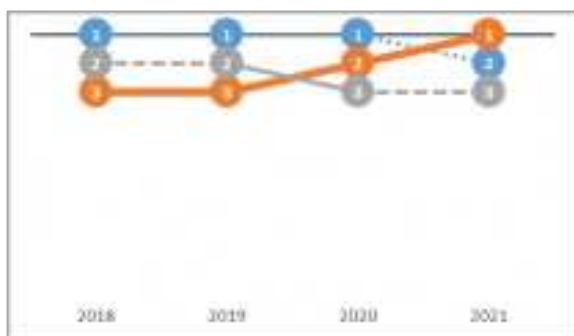
# (参考) 国内の都市ランキング (日本の都市特性評価)

- 森記念財団都市戦略研究所による「日本の都市特性評価2022 (国内都市ランキング)」で、東京を除く国内138主要都市の中で、大阪市が総合1位にランクイン
- 「経済・ビジネス」、「研究・開発」、「文化・交流」、「交通・アクセス」の4つの分野で高い評価を得た

## ■2022年のトップ5

総合順位	総合ランキング		経済・ビジネス		研究・開発		文化・交流		生活・居住		環境		交通・アクセス	
	都市名	スコア	分野順位	スコア	分野順位	スコア	分野順位	スコア	分野順位	スコア	分野順位	スコア	分野順位	スコア
1位	大阪市	1242.8	1位	268.8	6位	67.9	2位	305.6	81位	—	137位	—	1位	218.8
2位	京都市	1167.7	39位	162.1	2位	100.4	1位	314.1	49位	303.2	111位	—	11位	154.3
3位	福岡市	1147.7	5位	204.4	5位	68.0	4位	201.4	3位	348.1	67位	149.3	3位	176.5
4位	横浜市	1140.5	6位	198.2	3位	76.1	3位	272.8	56位	298.6	91位	—	10位	154.9
5位	名古屋市	1131.7	4位	207.9	1位	112.7	6位	180.0	22位	319.9	127位	—	2位	187.6

## ■ ランキング年次推移 (上位3都市)



## ■ 「日本の都市特性評価 (国内都市ランキング)」とは

- 一般社団法人 森記念財団 都市戦略研究所が、国内都市の総合力を毎年度評価し、公表 (最新版は2022年版)
- 対象都市は、東京を除く国内138の主要都市。(対象都市: 政令指定都市、県庁所在市、人口17万人以上の都市) ※東京23区は別途評価
- 6分野、26指標グループで評価しており、総指標数は86

# 関西のポテンシャル

## スポーツ・健康

- ◆スポーツイベントツーリズム
  - ・スポーツ・文化ダボス（2017）
  - ・ラグビーワールドカップ（2019）
  - ・オリパラキャンプ（2020）
  - ・ワールドマスターズ（2021）
- ◆予防（先制）医療と連携した健康長寿
  - ・アンチエイジングな暮らしを支えるヘルスケア

## 文化力

- ◆文化イベント
  - ・スポーツ・文化ダボス（2017）
- ◆文化芸術創造都市（アーティスト・イン・レジデンス）
  - ・外国人芸術家を受け入れ
- ◆オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラム
- ◆食や伝統芸能の発信
- ◆観光インバウンドの促進（クールジャパンやおもてなしの魅力）

## 関西の強み

- ▶人口2000万人→数多の優れた人材を輩出
- ▶最先端イノベーション地域
  - ・東大阪を中心とするものづくり「まいど1号」等
  - ・創薬、医療機関、健康食品等の産業基盤と大学・研究機関の集積
- ▶世界遺産
  - ・古都京都・奈良の文化財
  - ・紀伊山地（熊野古道）
- ▶スポーツの聖地
  - ・甲子園球場・花園ラグビー場

## 科学技術イノベーション

- ◆ライフ・グリーンイノベーション
  - ・革新的創薬、医療機器開発
  - ・再生可能エネルギーやエネルギーマネジメントシステムの開発
- ◆関西から「リサーチ・イン・ジャパン」を発信
  - ・海外研究者の招聘

## 関西元気文化圏

Spring・8.SACLA  
播磨科学公園都市

神戸医療産業都市  
スパコン「京」

関西国際空港

古都京都  
(世界遺産)

けいはんな学研都市

花園ラグビー場

古都奈良  
(世界遺産)

熊野古道  
(世界遺産)

アジアへ  
世界へ

北海道

東北

東京

東海

九州

日本全体の  
活力源

## 人材力

- ◆民間力の活用
  - ・国際バカロレア、理数、英語教育
- ◆グローバル化やICTへの対応
  - ・特別支援教育などの質の高い教育

地球力を一致団結  
関西発の夢ビジョン「KANSAI」

(世界に向けた競争力 いきいき関西から文化力)

# 関西のポテンシャル

## ■瀬戸内との連携により相乗効果を誘発

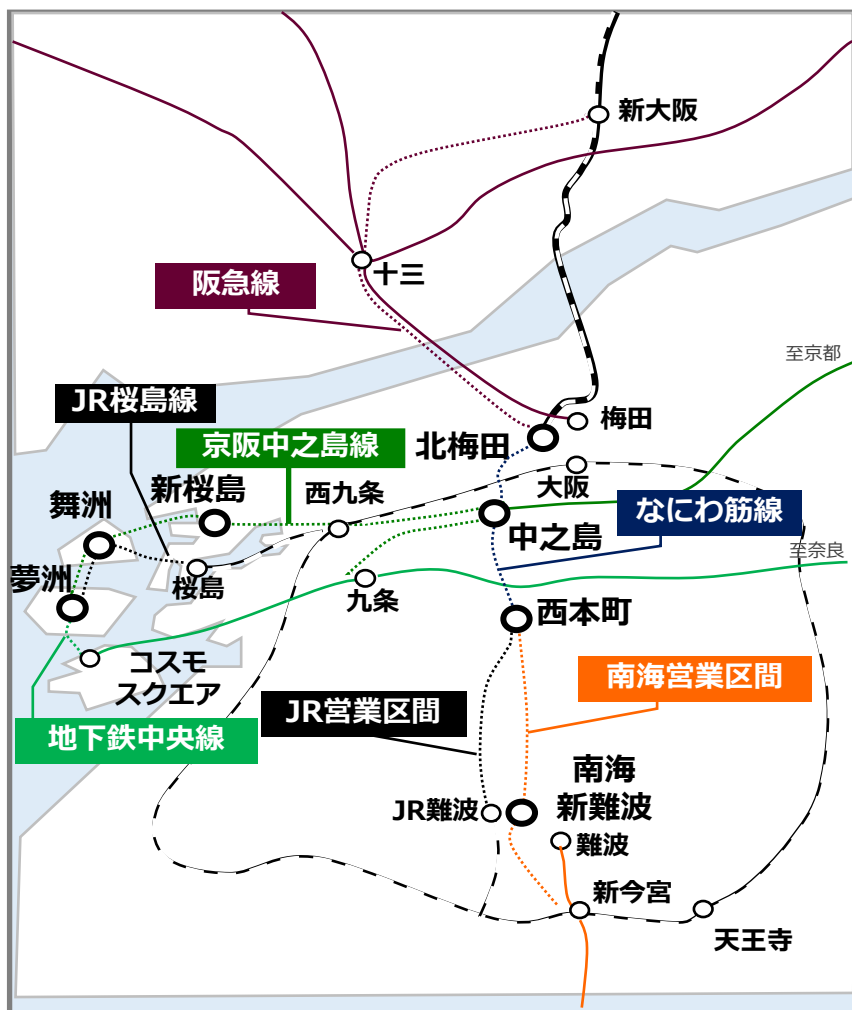


瀬戸内は、日本有数の自然景観を有し、瀬戸内クルーズや瀬戸内国際芸術祭など世界から人を集める潜在能力が高いエリア

# 鉄道延伸

大阪での大型開発プロジェクトに付随し、関西国際空港や大阪空港などとの接続も含めたアクセス改善に向け、鉄道延伸が複数検討されており、中長期的に多額のインフラ投資が見込まれます。

## ■ 路線図 (想定含む)



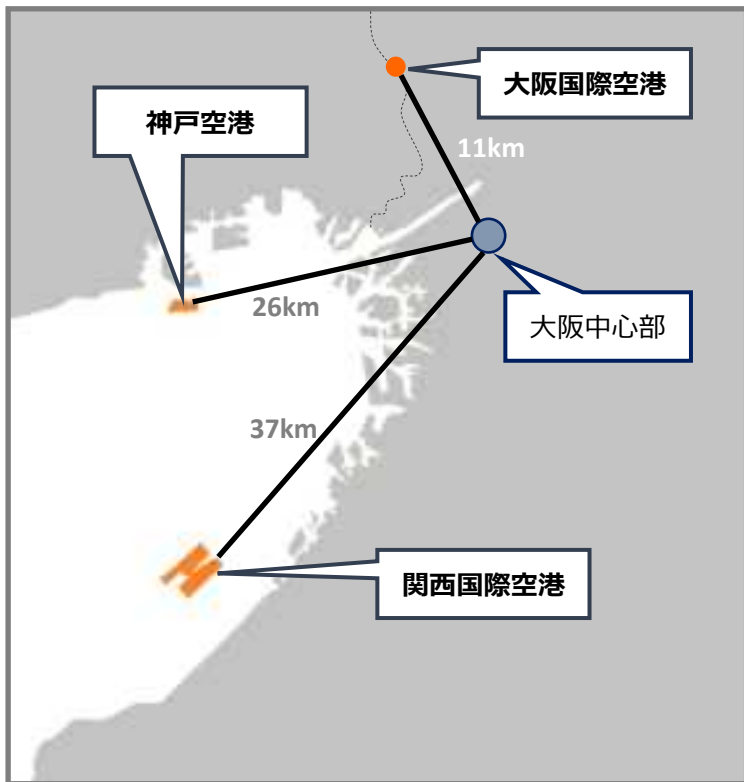
## ■ 鉄道延伸の動向 (構想段階のもの、想定含む)

路線	区間
JR 東海道本線	北梅田(仮称) ~ 新大阪
JR なにわ筋線	北梅田(仮称) ~ 難波 (北梅田~西本町は南海と共同営業)
JR 桜島線	桜島 ~ 夢洲
大阪メトロ 中央線	コスモスクエア ~ 夢洲
京阪 中之島線	中之島 ~ 九条 中之島 ~ 西九条 ~ 夢洲
南海 なにわ筋線	北梅田(仮称) ~ 新今宮 (北梅田~西本町はJRと共同営業)
阪急	北梅田(仮称)/西梅田 ~ 十三 ~ 新大阪 曾根 ~ 大阪空港(仮称)

(出所) 三井住友銀行作成資料より抜粋

# 3空港の概要

## 関西三空港



	関西国際空港	大阪国際(伊丹)空港	神戸空港
設置・管理者 運営権者	新関西国際空港(株) 関西エアポート(株)	新関西国際空港(株) 関西エアポート(株)	関西エアポート神戸(株)
開港日	1994年9月4日	1958年3月18日※ ※「大阪空港」として開港	2006年2月16日
滑走路	3,500m×1本 4,000m×1本	1,828m×1本 3,000m×1本	2,500m×1本
2019年 総旅客数	3,191万人 国際 2,493万人 国内 698万人	1,650万人	336万人
運用時間	24時間	7:00~21:00	7:00~23:00
年間発着枠	23万回	13.5万回 (370回/日)	2.9万回 (80回/日)
役割分担 の考え方 (2005.11 関西3空 港懇談会にて航空局よ り説明了解)	<ul style="list-style-type: none"> <li>西日本を中心とする国際 拠点空港</li> <li>関西圏の国内線の基幹空 港</li> <li>国際線は関西国際空港に 限定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関西圏の国内線の基幹空 港</li> <li>環境と調和した都市型空 港</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>神戸市及びその周辺の国 内航空需要に対応する空 港</li> </ul>
今後の方向性 (2022.9.18 第12回 関西3空港懇談会にて 取りまとめ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>2030年代前半を目途に、 年間発着回数30万回の 実現を目指す</li> <li>1時間あたりの航空機処理 能力を、2025年までに概 ね60回への引き上げを目 指す</li> </ul>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな国内線ターミナル運 用開始時を目途に、国内 線は最大発着回数を120 回/日に拡大する</li> <li>2030年前後を目途に、最 大40回/日の国際定期便 の運用を目指す</li> <li>国際チャーター便は2025 年万博時から運用可能に</li> </ul>

## ■ 2019年 航空旅客数 (アジア地域)

世界順位	2位	5位	8位	11位	13位	14位	17位	18位	19位	21位	24位	25位	26位	50位	69位	-	-
空港名 (都市名)	北京	羽田	上海	広州	香港	仁川	デリー	シンガ ポール	バンコク	クラン プール	成都	ジャカル タ	深圳	成田	関西	伊丹	神戸
利用者数	10,001	8,551	7,615	7,339	7,142	7,120	6,849	6,828	6,542	6,234	5,586	5,450	5,293	4,429	3,191	1,650	336

羽田・成田 計 12,980万人

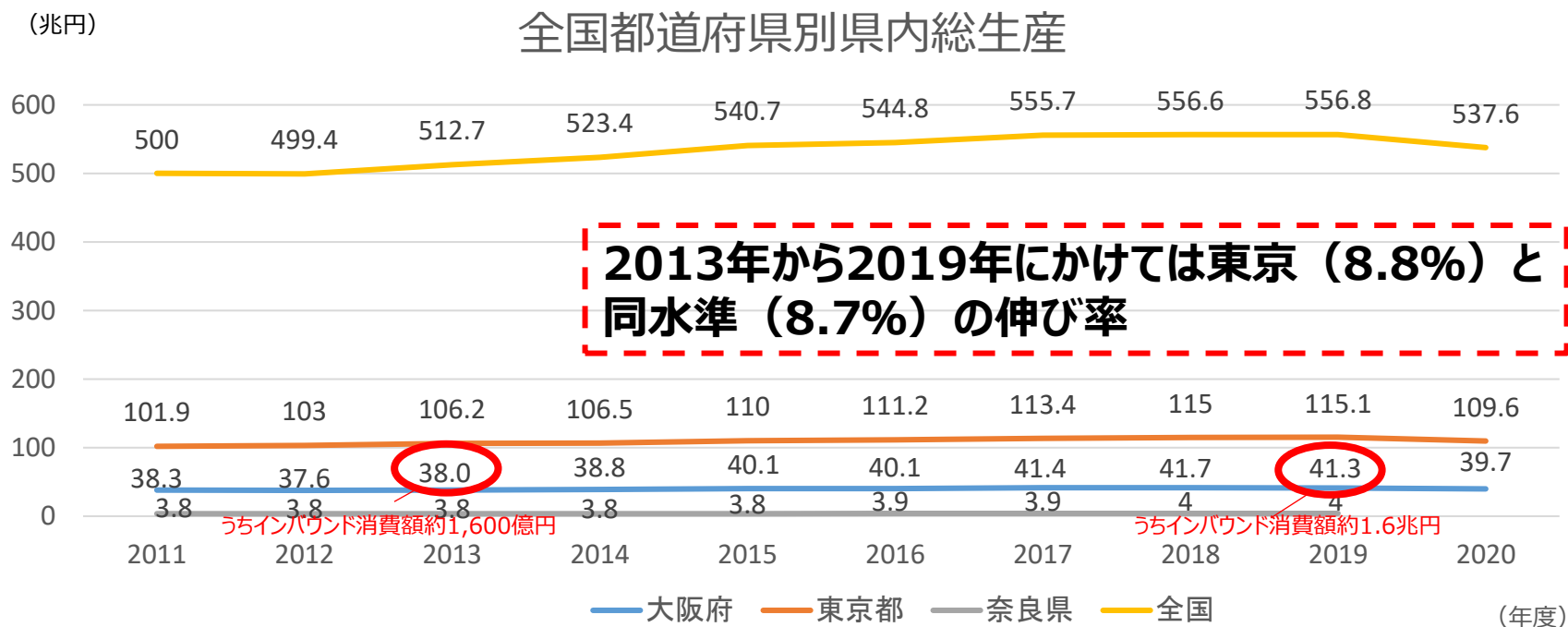
関西・伊丹・神戸 計 5,177万人

※単位：万人 「ACI Annual World Airport Traffic Report」(国際空港評議会) 資料より



# 経済の低迷からの脱却

## 大阪府の状況



対前年比伸び率(%)	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
大阪府	△1.2	1.1	△0.4	2.6	△0.1	3.1	0.4	△1.7	△4.6
東京都	1.0	3.1	0.3	3.3	1.1	2.0	1.4	0.1	△4.7
全国	△0.1	2.7	2.1	3.3	0.8	2.0	0.2	0	△3.5

◆インバウンドにより大阪及び日本の経済が支えられてきた  
⇒ 観光の復活による大阪及び日本経済の復活をめざす

## 人手不足やコスト上昇などの課題はあるものの、全国旅行支援などにより 観光業界は順調に回復基調

### 1. 観光業界の概況

#### 《国内観光》

##### ◆旅行会社

- ・2022年度の主要旅行業者の取扱額の回復率（対2019年度比）は、国内旅行約94%（参考：海外旅行約25%、インバウンド向け旅行約30%）  
（出典：観光庁「主要旅行業者の旅行取扱状況年度総計（速報）」）
- ・2023年4月の2019年同月比は、国内旅行約70%、海外旅行約33%、インバウンド向け旅行約84%  
（出典：観光庁「主要旅行業者の旅行取扱状況速報」）

##### ◆航空会社

- ・2023年4月 関西空港における国内線旅客数の回復率（対2019年同月比）は92%（※）※参考：2023年3月は対2019年同月比99%  
（出典：関西エアポート株式会社「関西国際空港・大阪国際空港・神戸空港2023年4月利用状況」）

##### ◆ホテル・旅館

- ・2021年度の大阪府内における宿泊施設の客室数は2019年度と比較して6,330室増加（出典：厚生労働省「令和3年度衛生行政報告例」）
- ・2023年4月の大阪市内における特区民泊の数は過去最高であった2020年4月度と比較し1,517室減少（出典：大阪市調べ）
- ・全国旅行支援事業などにより、**2022年の日本人延べ宿泊者数は対2019年比95%まで回復**  
（出典：観光庁「宿泊旅行統計調査 令和4年・年間値（速報値）」）

#### 《インバウンド》

##### ◆航空会社

- ・2023年5月の関西国際空港外国人入国者数の回復率（対2019年同月比）は、約69%（出典：大阪出入国在留管理局「出入国管理統計」）



コロナ禍からの復活が見えてきたが、持続可能な観光をめざし、  
オーバーツーリズム対策や災害・緊急時の対応策など、受入環境を整備していく必要がある

### 2. 課題と要望（事業者からの声）

①事業者（特に中小企業・小規模事業者）の多くは支援策を評価

- ⇒「平均滞在時間・日数」と「1日当たり平均消費額」の増加を図るための**広域周遊型観光の促進**
- ・資金繰り支援について事業者に寄り添った**きめ細かな支援の徹底**

②サービス業を中心に新規求人数が大幅に増加しており、今後も「人手不足」が続く（出典：一般財団法人アジア太平洋研究所

- ⇒人材確保・育成の為の支援策

「Kansai Economic Insight Monthly」



グローバルスタンダードに沿った対応で感染対策と経済を動かすことに両軸を置きながら、  
経済再生に向けて進めていくことが重要

## アフターコロナを見据え、世界に選ばれる新しい観光スタイルの実践

### 大阪観光の再始動

- コロナ禍からの反転攻勢
- 観光関連事業者の経営維持支援
- インバウンドは国の方向性を見ながら段階的に戻す  
(インバウンド来阪者数は、コロナ前の3割水準(350万人)への回復をめざす)  
インバウンド来阪者数 2019年 1,231万人 ▶ 2020年当初目標 1,300万人
- 観光案内所におけるインバウンド受入環境の整備  
(JNTOの感染症対策ガイドラインに沿った環境整備、多言語対応の充実、営業時間の延長など)
- 海外プロモーションの再開
- 国内旅行を重点的に強化

2022年

2022年	
目標	実績
350万人	148万人

2023年

- 秋以降、来阪外国人客数をコロナ前同月の水準以上に戻す
- インバウンド来阪者数 目標1,300万人

2023年目標
1,300万人

2024年

- 来阪外国人客数をコロナ前の水準以上に戻す
- インバウンド来阪者数 目標1,400万人

2024年目標
1,400万人

2025年

- 大阪・関西万博
- インバウンド来阪者数 目標1,500万人  
訪日外国人旅行者数 3,200万人(2019年水準) 超え

2025年目標
1,500万人

2025年  
以降

- IR開業(2029年以降)  
(観光庁「新時代のインバウンド拡大アクションプラン」)  
《インバウンド動向を踏まえた大阪観光局の今後の動き》  
・海外リアルプロモーションの再開(東南アジアなどを中心に想定)  
・東南アジアLand Operator招請関西Fam Tripの実施







2030年目標
2,000万人

HOP

STEP

JUMP

# 【アジアNo.1の国際観光文化都市】へのロードマップ<sup>o</sup> (想定含む)

区分	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年以降	2030年以降
フェーズ	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p><b>HOP</b></p> <p>万博での飛躍を狙い、各事業で具体的活動の実行を重ね、成長を加速させる</p> <p><b>万博の機運醸成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●インバウンド再開</li> <li>●冬オリパラ(北京)</li> <li>●FIFA W杯(カタール)</li> </ul> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p><b>STEP!</b></p> <p>万博での成果を土台に、IR誘致を見据え総仕上げを行う</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p><b>JUMP!!</b></p> <p>アジアNo.1の国際観光文化都市の実現へ</p> </div> </div>					
	<p style="text-align: center;"><b>万博の機運醸成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ラグビーW杯(フランス)</li> <li>●夏オリパラ(パリ)</li> </ul>					
大規模イベント等	 空気のみらい EXPO	 未来モノづくり国際EXPO 2023 	 IGLTA世界総会	 食博覧会・大阪2025	Veb-city (2027年想定)  (2027年) 第35回日本医学会総会(2027年想定) ISPO (IR開業時想定)	
インフラ関係	中之島新美術館 オープン 大阪公立大学 開学	北大阪急行 延伸開通	うめきた2期 まちづくり 中之島未来医療国際拠点オープン	大阪公立大学 森之宮キャンパス 開設 淀屋橋地区 再開発	IR施設開業 (想定) 富裕層受入環境の整備(想定) 例) ヘルポート・スーパーヨットなど 淀川左岸線2期 一般共用開業台(2027)	新大阪駅再開発 (2030) なこ筋線開通 (2031) リニア中央新幹線(2037) 北陸新幹線乗入れ (2046国の想定)
来阪外国人 (単位:万人) ※観光局想定	150 (2022年の推計値)	1,300 <small>【参考】                      ・府市戦略: 2024年 1152.5                      ・観光庁: 2020年 4000 (全国)</small>	1,400	1,500 (万博での飛躍)	→	2,000 (全国6,000)

# 大阪観光局 取組みの方向性

## 1. 大阪観光局の役割

- ① **オーガナイザー**(organizer)  
全体をプロデュースする役割
- ② **プロモーター** (promoter)  
熱を生み出す役割
- ③ **アクセラレーター** (accelerator)  
取組みを加速させる役割

## 2. 大阪観光局のミッション (2017年11月DMO法人登録)

大阪観光推進のプラットフォームとして、大阪への経済効果を最大化する

- ① **数を増やす**  
大阪が目的地として選ばれる取組み
- ② **質を上げる**  
着地後消費を最大化させる取組み
- ③ **波及させる**  
経済効果を持続・波及させる取組み

➡ 量から質への転換を加速

## 3. 事業展開における3つのコンセプト

24時間観光都市  
Anytime

関西・日本観光のハブ  
Anywhere

多様性あふれる街  
Anybody

## 4. 万博・IRを見据えた活動目標

- ① **日本観光の「ショーケース」** 日本 of 新しい「玄関」大阪から全国の魅力を発信し、送客する。
- ② **日本観光の「トップランナー」** 各分野のプロ集団となり、全国の関係者のモデルに。
- ③ **成長戦略の「起爆剤」** 新しいビジネスや価値を生み出し、持続的な経済発展に貢献。
- ④ **高付加価値MICE都市** 参加者に高い満足度、経済効果を広く長く波及させるMICE都市となる。

# 大阪観光局が取り組む事業一覧

2023年は、アフターコロナを見据えた取組みに積極的にチャレンジし、大阪観光を再始動させる年

## 大阪観光新時代 スローガン「Discover OSAKA JAPAN」

多様な人材

スタートアップの育成

投資を呼び込む

新しい魅力の  
再発見



### SDGsの達成に向けた各取組み

「量から質へ」「安全・安心」「ストレスフリー」「シームレス」「オーバーツーリズム対策」「災害・緊急時対応」「人手不足対応」

#### 大阪のSDGs

ハラル対応

★ユニバーサルツーリズム

★緑化・環境への取組み

★ハットツーリズム

★食のSDGs

★スポーツツーリズム  
(サイクリング)

★留学生支援  
教育交流

★LGBTQツーリズム

#### インバウンド誘致

★リアルプロモーション

受入環境整備

★アウトバウンド促進

食の多様性・食文化

旅のマナー啓発

#### オーバーツーリズム対策

治安・騒音

防災

ゴミ

急患

#### 日本観光のショーケース

★文化・芸術

★ラグジュアリー

★食・ブランディング

★ナイトカルチャーの推進

重要コンテンツ

伝統行事・祭り

テーマコンテンツ開発

水都事業の推進

★スポーツツーリズム  
(プロスポーツ連携)

★広域連携(周遊)・府域周遊・大阪市域の取組み

広域連携(周遊)

府域周遊の促進

市域  
エリアゾーニング

#### 観光DX・マーケティングリサーチ

★観光データハース  
(DMP)構築

関空調査

★MaaSの推進

★観光アプリ

OSAKA-INFO  
SNS運用

#### MICE

★誘致・創出

★SDGs for MICE

★スポーツMICE

#### 観光インフラ

Osaka Free Wi-Fi

案内所の運営管理

コールセンター  
チャットボットの運営

#### 自主財源

大阪楽遊パス(Eチケット)

ライセンス・広告

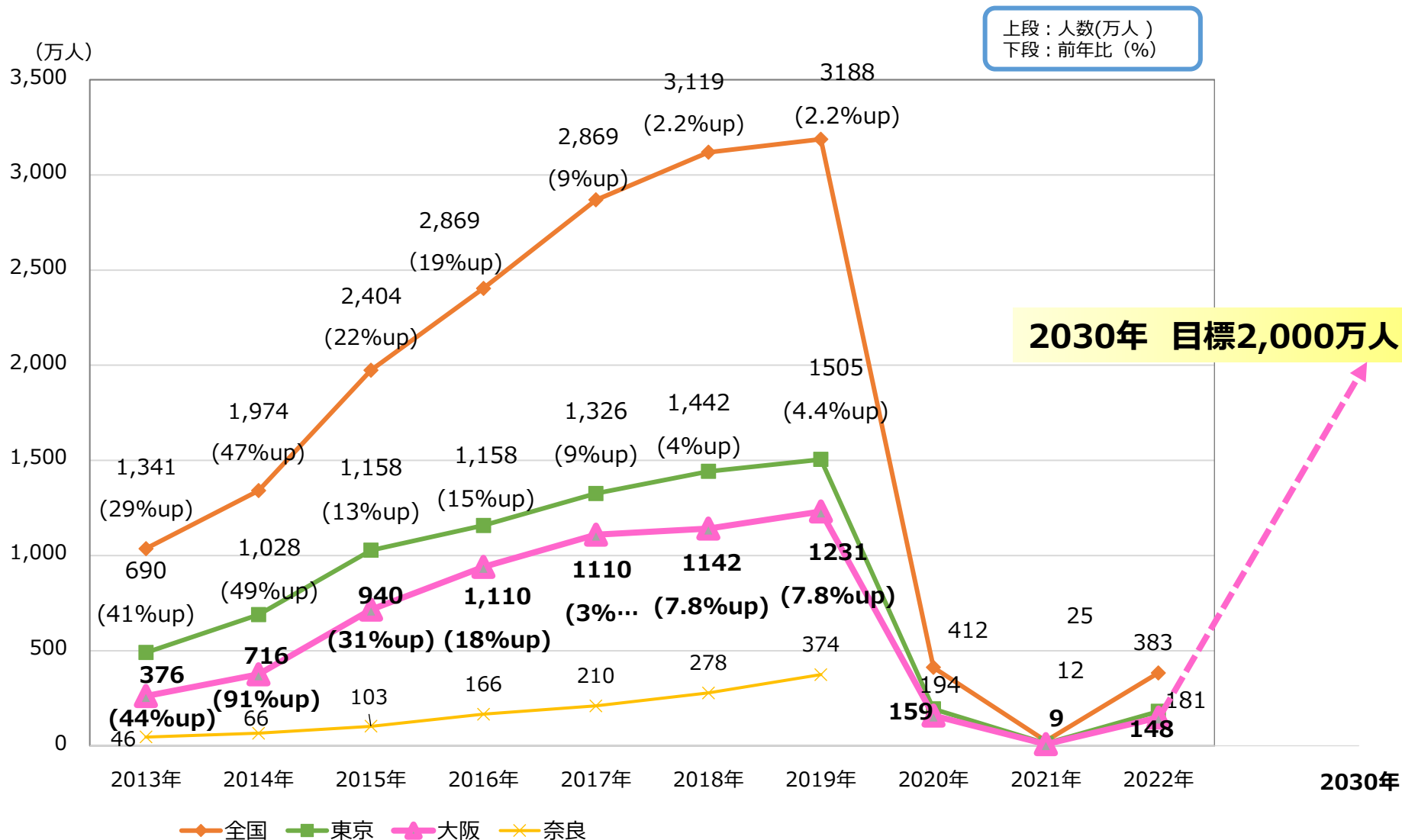
賛助会員

オフィシャルパートナー

#### 喚起支援事業

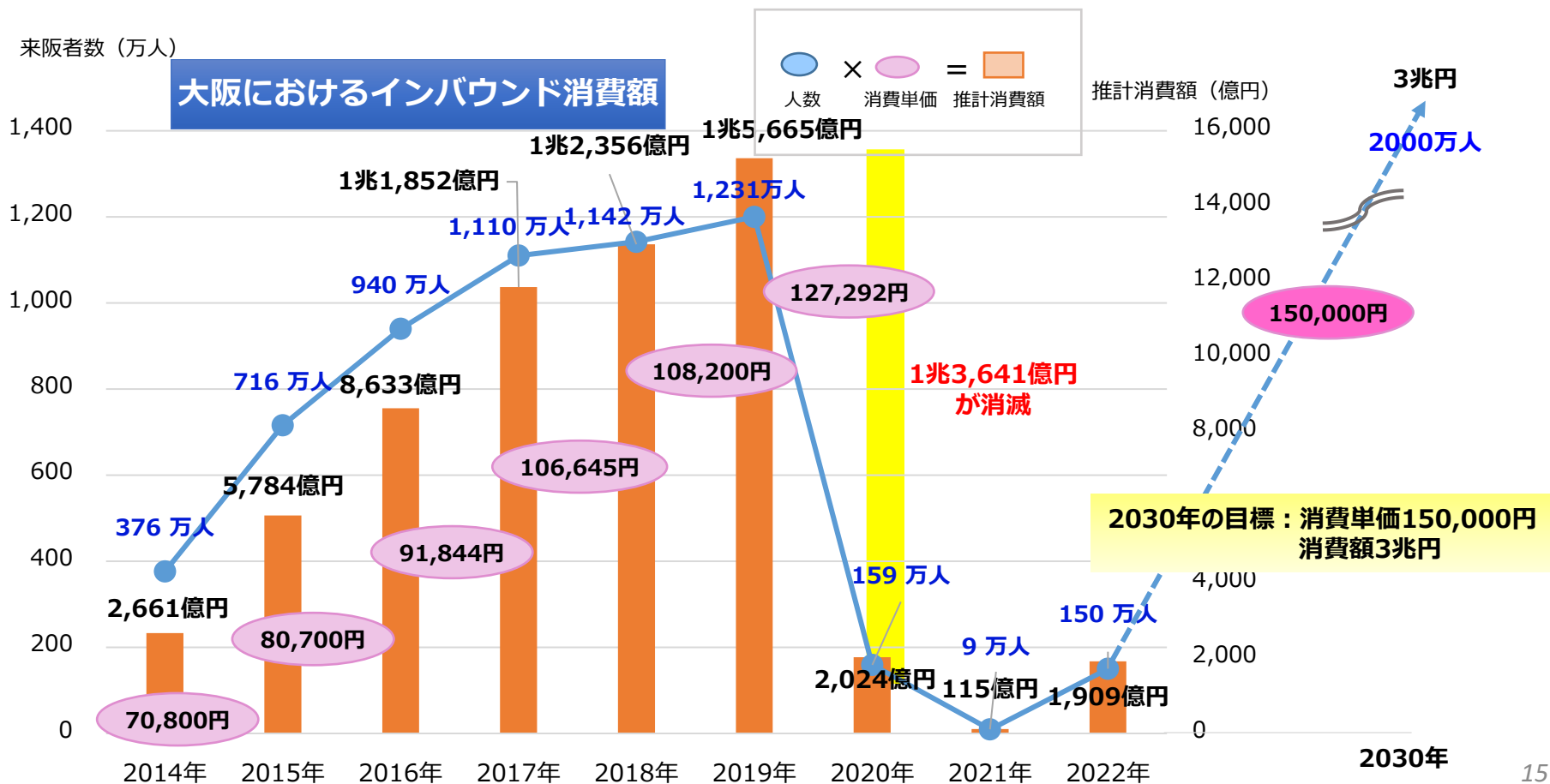
観光事業者  
応援事業

# 訪日外国人客数の推移 (2013年~2022年推計)



※2020、2021年、2022年(東京・大阪)は大阪観光局推計

# 来阪インバウンドによる観光消費額推計概算（2014年～2022年推計）



区分	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年 (推計)	2021年 (推計)	2022年 (推計)
来阪外国人数	376 万人	716 万人	940 万人	1,110万人	1,142 万人	1,231 万人	159 万人	9万人	<b>150万人</b>
1人あたり消費単価 (大阪)	70,800 円	80,700 円	91,844円	106,645 円	108,200 円	127,292 円	127,292 円 ※前年並みと仮定	127,292円 ※前年並みと仮定	<b>127,292円</b> ※前年並みと仮定
消費額推計(大阪)	2,661億円	5,784 億円	8,633億円	1兆 1,852億円	1兆 2,356億円	1兆 5,665億円	2,024億円	115億円	<b>1,909億円</b>
<参考> 1人あたり消費単価(全国)	151,174円	176,167円	155,896円	153,921円	153,029円	158,531円	158,531円 ※前年並みと仮定	158,531円 ※前年並みと仮定	<b>158,531円</b> ※前年並みと仮定



# 2023年度大阪観光局事業の5つの柱

## ● 観光DXの推進

- ・来阪観光客にストレスフリーかつシームレスな旅を提供するため、観光分野のONE認証化を進めるとともに、マーケティング分析に基づく府内周遊を促進

## ● 海外プロモーションの再開・国内プロモーションの効率化

- ・インバウンドの本格再開に向け、リアルプロモーションを段階的に再開するとともに、ターゲット国の事情に応じた情報発信の強化
- ・マーケティングデータに基づいた効率的・効果的な国内プロモーションを実施
- ・アウトバウンドの促進

## ● 大阪・関西万博、IR開業に向けたSDGsの機運醸成及び取組みの推進

- ・万博開催まで2年という節目であり、万博に向けた取組みや万博と連携した取組みを進めるとともに、2029年を予定するIR開業を見据えた準備を進めていく

## ● 「大阪＝日本の観光ショーケース」に向けた取組みの推進

- ・大阪が日本の観光ショーケースとして世界に認知されるために取り組む様々な取組みの推進

## ● 高付加価値MICE都市の実現

- ・参加者に高い満足度及び経済効果を長期的に波及させる取組みを推進

# 海外プロモーション (リアル)



## 《2022年度の実績》

- 台湾大商談会への参加 (2023年3月)
- VJTM (Visit Japan Travel Mart) への参加 (2022年9月)
- 在京ランドオペレーターを大阪、関西へ招聘し魅力コンテンツをPR (2023年1月)
- セールスコールの実施 (ソウル、台北、バンコク、チェンマイ、ハノイ)

## 2023年度 海外リアルプロモーションの方針とスケジュール

- 人的ネットワーク再構築 (航空会社、旅行会社、政府観光局等)
- 新規市場開拓 (欧州、中東など) ※下図★部分
- アウトバウンドの促進に関する取組み
- 高付加価値観光 (来阪観光時消費額増加)
- 大阪・関西万博機運醸成

20以上の国へ  
大阪の魅力を直接PR!

2023	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東アジア		5月～6月 旅行会社セールス@香港、マカオ、広東省 (広州、深圳等)								11月 商談会参加@韓国・ソウル、旅行会社セールス@韓国・釜山		
東南アジア		6月 旅行会社セールス@韓国・ソウル								11月 旅行会社セールス@台湾・台北、高雄		
南アジア				7月 旅行会社セールス@中国・上海、浙江省、江蘇省						時期未定 トッププロモーション@韓国		
米州												2月 LATAS旅行博出展@アメリカ・ロサンゼルス
欧州												★10月 現地メディア向けPR@アゼルバイジャン・バクー 3月 ITB旅行博出展@ドイツ・ベルリン 11月 WTM旅行博出展@イギリス・ロンドン、旅行会社セールス：フランス・パリ ★11月 STVV連携PR@ベルギー・シントトロイデン ★11月 現地メディア向けPR@スペイン・バルセロナ
中東												★12月 旅行会社セールス@トルコ、イスラエル
豪州												★10月 旅行会社セールス@UAE・ドバイ、アブダビ ★3月 旅行会社セールス@カタール、サウジアラビア
市場横断												1月or2月 旅行博出展@オーストラリア・シドニー
取材、ファム												9月 ATWS商談会@北海道・札幌 10月 VJTM商談会@大阪・インテックス大阪
ツール制作												5月 ACI (国際空港評議会) 参加者ファム 7月 ニュースレター① 6月～8月 ムスリム対応デジタルガイド制作 10月 ニュースレター② 1月 ニュースレター③ 3月 ニュースレター④



# データに基づく観光戦略策定（観光局事業の効率化）

## 《2022年度の実績》

- 国内調査（USJ協働）の実施により「異世界感」の訴求が大阪への誘客促進には有効という結果を得られたため、「大阪いらっしやいキャンペーン2022」内で特集ページを制作し効果検証
- 府内市町へのマーケティングレポート提供  
⇒「大阪いらっしやいキャンペーン2022」で収集したデータについて、同キャンペーン内企画で連携した25市町ごとに分析し、個別に説明
- 大阪観光DMPのパイロットプログラムによる連携・・・羽曳野市・泉佐野市

## 2023年度の取組方針

- 関空アンケート調査の再開（年間4回）
- 保有データを活用した観光戦略の策定支援及びその支援メニューの創出
- 自治体、民間向けマーケティングセミナーの実施
- BtoB、BtoC、MICE向けなど目的に応じたプロモーションの実施
- アンケート調査結果を基にした新たなプロモーションコンセプトの発掘

大阪観光局事業を客観的に評価し  
PDCAサイクルを回し成果にコミット

	2022年	2023年	2024年	2025年以降
<b>取組方針</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>府域のマーケティング支援メニュー創出（有償・無償）</li> <li>マーケティングリサーチの実施</li> <li>効果的な情報発信</li> <li>取得データの活用と還元</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自社WEBデータ</li> <li>自社アンケートデータ</li> <li>クレジットカード消費データ</li> <li>携帯会社データ</li> <li>SNSデータ</li> <li>観光庁公開データ</li> </ul>		
<b>取組内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各事業のKPI設定による事業効果の可視化 広告効果の対前年15%アップを実現</li> <li>観光消費喚起事業で取得したデータを分析 ↓ データを活用した観光戦略策定支援事業の説明</li> <li>精度の高いプロモーションで各地と連携強化 福岡市、高知県等随時追加予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>府域のマーケティング支援</b> ・保有データを活用したコンサルティング ・自治体、民間向けマーケティングセミナー</li> <li><b>マーケティングリサーチの実施</b> ・府内市町村とのデータ連携やデータを活用したプロモーションの連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関空アンケート調査の再開（年間4回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BtoB、BtoC、インバウンド、MICE向けなど目的に応じたプロモーションの実施</li> <li>・大阪観光局が保有又は調達したデータによる府域の独自広告セグメントの作成</li> </ul>

# 観光アプリの開発（全体像）



## 決済・広告・観光データ基盤

①決済基盤(地域通貨・VISA・マスターと連携)  
②各種データ解析(プッシュ通知・動線・アクセス・消費額など)

格納

連携

●スーパーシティ構想

## ORDEN (データ連携基盤)

<ORDENの構造(イメージ)>

サービス	ルート最適化	高齢者支援	健康づくり	大阪観光	子育て支援	行政手続
大阪広域データ連携基盤[ORDEN]	①コミュニケーション基盤 1つのIDでパーソナライズサービスを提供					
データ	②データ連携基盤 多様なデータを連携・流通させ、サービスを高度化					
	行政データ			民間データ		

# 世界における日本食のポテンシャル

(参考) 世界で日本の「食」が注目されている

観光庁、JETROの調査において、日本の「食」への期待が高いことが示されている。

## 和食ブーム

- 外国人外国人旅行者が「訪日前に期待すること」  
**1位「食事」(76.2%)**

出典:観光庁「平成26年訪日外国人消費動向調査」(2015年)

- 外国人が好きな外国料理  
**1位「日本料理」(66.3%)**

出典:日本貿易振興機構調査(2014年3月)

※複数回答可、回答者数に対する回答個数の割合  
(自国の料理は選択肢から除外)

- 海外の日本食レストランの数

**2013年** 約5万5千店 → **2015年** 約8万9千店

(外務省調べ、農林水産省推計)

## (参考) 好きな外国料理



※複数回答可、回答者数に対する回答個数の割合。(自国の料理は選択肢から除外)

出典:ジェトロ「日本食品に対する海外消費者意識アンケート調査」(2014年3月)を基に作成



# 「OSAKA」ブランディング構築のための事業展開 <食>

世界の「食のまち」と並ぶ「食のまち・大阪」ブランド構築に向けて

## 「食の都・大阪」を取り巻く現状と課題

(現状)  
大阪の「食」は、重要な観光資源となっているが、  
**本来のポテンシャルが活かされていない**

(課題)  
① **B級グルメのまち**として認知されている  
② **食の消費額は国際比較では平均以下**

## 事業展開の方向性

① **多様な食のコンテンツへの消費促進による「食のまち・大阪」の事業展開**  
**<ボリュームゾーンの消費拡大>**  
・外食事業者との連携  
・様々な食のコンテンツとの連携

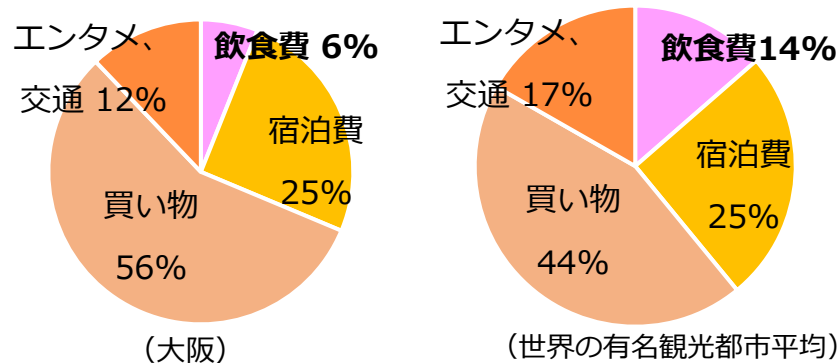
② **付加価値の高い食コンテンツへの消費促進**  
**<消費単価の向上>**  
・世界のメディアでの広報など情報発信展開  
・食に関するMICEの誘致やイベントとの連携による発信

## 食事業の取組み (SDGs、食の多様性、食 x テーマ)

③ **食分野のSDGsへの取組み**  
**<観光都市ブランディング>**  
・地産地消、フードロス削減、地域環境への取組み  
・食の多様性の受入環境整備 (ハラル料理、ビーガン、ベジタリアン料理など)

④ **食との掛け算による付加価値の創造**  
**<観光都市ブランディング>**  
・食と関連テーマ、コンテンツ、(歴史、体験、スポーツ、芸術文化など)との連携による付加価値の創造と消費単価の向上

## 世界の観光都市と比較した大阪の現状とポテンシャル



観光客が滞在中に消費する業種内訳を、世界の有名観光都市 (東京、パリ、ニューヨーク、シンガポール、香港、サンセバスチャン) と比較

さらに飲食店の種類をレストラン、バー・居酒屋、ファストフードにカテゴリー分けしたところ、大阪は観光客によるレストランでの消費単価が他都市より低い。  
(単位：ドル Mastercard調査より)

都市	大阪	東京	パリ	ニューヨーク	シンガポール	香港	サンセバスチャン	平均
消費単価 (ドル)	131	202	185	284	192	224	105	189

(食のまち・大阪のポテンシャル)  
ミシュラン星つきレストランの数  
(2022年発刊版参考)

- |              |           |
|--------------|-----------|
| 1位 東京        | 6位 ロンドン   |
| 2位 パリ        | 7位 ニューヨーク |
| 3位 京都        | 8位 シンガポール |
| 4位 <b>大阪</b> | 9位 上海     |
| 5位 香港        | 10位 北京    |

